

社会共生実習「活動共有会」で各プロジェクトの活動内容を共有し合う受講生たち

全プロジェクトの活動共有会をおこないました



▲活動共有会の様子



▲アイスブレイクのひととき



▲各プロジェクトの活動内容を共有し合う受講生たち



▲他の円卓を見学する受講生たち

7/5（金）に、「社会共生実習」前期活動共有会が開催されました。「活動共有会」とは、「社会共生実習」の全プロジェクトの受講生が一堂に会して、プロジェクトを横断して課題や悩みを共有し、横のつながりを広げ学びにつなげる取り組みです。受講生たちは、5～6名のグループに分かれ、所属プロジェクトや学年、学科が異なるメンバーで取り組みました。

開会の挨拶として土田美世子教授から「活動共有会」の意義を3つ述べられました。

1. 自分の考えや気持ちをアウトプットする
2. 他のプロジェクトと比べることで自分たちのプロジェクトの活動のアドバンテージや改善点を見つける
3. 学びを共有することで、ジャンプアップし、社会共生の理念に向けた活動に向かうことができる

アイスブレイクとしてボールを使ったゲームをおこなうと、空気が和み、お互いの距離が縮まり、少し受講生の緊張はほぐれたようでした。

坂本清彦准教授より「お互いの活動の状況を知り、同じ社会共生実習を履修している一体感を持つ」という「活動共有会」の目的が示されました。また、「今日の目標として、いろいろな話を楽しんでください。そして、同じグループのメンバーの名前を覚えて帰ってください。できれば、どんな活動をおこなっているかも覚えてください。」と伝えられました。

受講生たちはそれぞれ自主的に話し始め、ところどころで笑いが起きたり自然と拍手が沸き起こったりと、終始にぎやかな雰囲気に進んでいきました。

他のグループでどんなことが共有されたか、他の円卓を見学する時間が設けられました。みんな興味津々で他のグループの円卓を見て回りました。

久保和之教授より「今日会った他のプロジェクトの人とも今後キャンパスで会ったら近況報告などして、同じ実習をとっている仲間みんなと学んでほしいと思います。」との言葉が掛けられました。

受講生インタビュー

- ①このプロジェクトを選んだ理由は？ ④現在、このプロジェクトではどのような活動をしていますか？
②実際に活動して大変だと感じことは？ ⑤今後の目標やチャレンジしたいことは？
③受講して身についたスキルは？ ⑥「社会共生実習」のプロジェクトに興味がある方へのメッセージ



障がいがある子どもたちの
放課後支援
現代福祉学科 3年生
上野 帆乃夏さん

①自閉症スペクトラム障がいをもつ方の幼少期の自伝を読む機会があり、周囲の方の誤った認識や理解不足による当事者の「生きづらさ」に衝撃を受け、完全に共感することは難しくても理解しようとする…理解者のひとりになることはできるんじゃないかな？という思いがあり、そんな時「障がいがある子どもたちの放課後支援」を知り、学校で受講できる安心感もあり参加しました。②実習先では非言語コミュニケーション(目の動き/視線/瞳孔の大きさ/手足の動き)などで、表現・意思表示をしてくれる方に、どのような時にどういう反応をするのか？どんなことが好きなのか？など、意思疎通を図ることが大変でした。⑤はじめは、障がいをもってる子どもたちと関わり、理解したいという気持ちを持っていたけど、「障がいをもってる/もってない」に関係なく困ってる人がいたら積極的に声を掛けられるようになりたいと思っています。⑥いろんな考えや意見があると思いますが、「実際に接していくと偏見が…気付けば失くなってたよ」と周りの人に話すことで理解を広げられたら…と思っています。

④私自身、誤った情報から偏見や差別意識を内に秘めてた…ということがあり、関わったことも無いのに国籍や住んでる地域でその人を決めつけてはいけない…と気づき、地域との交流をとおして文化や歴史を学びたい…人権問題や多文化共生にも関心があったので、このプロジェクトに参加しました。②実習先の「ほっこりカフェ」では地域の子どもの学習支援を行ったり、外と一緒に遊んだりしています。いろんなバックグラウンドや家庭環境の子どもたちがいて、「これ、聞いてもいいのかな？」って、戸惑うこともあり、どうやって関係や理解を深めていけばいいのか…という点が難しいと感じました。⑤少しでも理解、知ろうとする気持ちで取り組むと、偏見・差別・意識が取り除かれ、自分の考えが間違ってた…と気づかれました。この1年、このプロジェクトをとおして将来に繋げていきたいと思っています。今後、社会問題や自身に起こることにに対して「本当にそうなのか？」という疑問を抱き、正しい情報を得て、経験を積み、伝えられるようになりたい。



多文化共生のコミュニティ・
デザイン～定住外国人にとって
住みやすい日本になるには？～
現代福祉学科 2年生
中矢 柊成さん



農福連携で地域をつなぐ～
「地域で誰もがいきいきと
暮らせる共生社会に向けて」
現代福祉学科 4年生
高嶋 大晴さん

①昨年も農福連携のプロジェクトを受講し、施設の方・利用者の方・職員の方も含め関わらせていただき、もう1年、農作業をとおして「より交流を深めたい」という思いと、卒業論文のデータ収集を目的に参加しました。⑤NPO法人の代表の方にお聞きしたのですが、障がいをもっている方が農作業に従事していることを世間から「遊んで作ってるんじゃないか？」と悪いイメージをもつ方もいらっしゃるようで、そういったところを変えていきたい。「こんなもの作ったんだ、すごいね」と障がいをもっている方が能力的に劣っているような…そういうイメージの払拭に繋がれば良いかなと思っています。あと、施設の利用者の方が農作業をすると工賃が貰えますが、中には工賃が低すぎて、お金を払って農作業をされている方もいらっしゃるって農福連携について調べていく中で知り「工賃を引き上げる」…そういった報酬体系を改定していくことにも取り組んでいきたい。⑥座学中心の授業から、現場に出て農作業を通じ、色々な環境に置かれている方たちと汗を流し他愛もない話をしながら「楽しい」と共感できるこのプロジェクトに、是非、参加していただければと思います。

①もともと映像制作に興味があり、CM実習の授業で「びわ湖放送」との共同作業があり、社会問題をテーマにドラマを制作しましたが、いろんなジャンルの映像を作ってみたいという思いがあり、「門真市のPR」という、今までにない、本格的な取り組みや経験ができると思い受講を決めました。②「門真市のPR」を制作するため、撮影の取材や許可も「企業」や「市の広報」と管轄によって違い、それぞれアポイントを取って交渉するため、撮影に入るまでの段取りに時間がかかったり、自宅で編集した無料の編集ソフトと学校の編集ソフトのバージョンが違ったため、学校で開かず…二人で手分けして作業したことも大変でした。③企画から編集まで、ひととおりの作業が出来たことや、色々な立場の方との対面での企画説明や交渉の経験は、自身の強みに繋がると思います。④現在は、畑地区棚田でショート動画を4本制作し、今後は下級生たちに、アドバイスや企画・意見など、継続履修して学んできたことを大切に伝えていきたいと思っています。



自治体をPRしてみる！
CM学科 4年生
十塚 奈津さん



コミュニティの情報発信！
レク龍プロジェクト
社会学科 4年生
黒河 辰真さん

①「浮き輪でGO!」のイベントを知り、企画から実現に向かって成しとげる…自身が携わった取り組みで「周りの人が笑顔になる/喜んでくれる」そういったことに魅力を感じました。あと、もともと人見知りで、人前で話すが得意ではなく、苦手克服に繋がるのでは…と思い志望しました。②昨年は3年生が多く、イベントの決め事も「サークルが忙しいから…」という理由で、なかなか人が集まらず…二人で進めることが多くなり、負担が大きくなった…というところが大変でしたが、そういう時に力を発揮できるのが自身の強みかな？と、気付くこともできました。④「浮き輪でGO!」では司会を、普段は滋賀県レクリエーション協会の広報を担当し、お便りやホームページを作成しています。⑤レクリエーションを広める側と受ける側の方たちも高齢の方が多く、誰でも座りながら気軽に楽しめる…そういった取り組みのために、後期にはレクリエーション大会やレクリエーション・インストラクター講習会にも参加し、学んだことを実践に生かすことで、交流を深めていきたいと思っています。

①昨年、「多文化共生のコミュニティ・デザイン」のプロジェクトを受講し、現場に出て自分たちで企画を考え・実践し、取り組んできたことを生かしたいと思い、今回は「お寺」と「福祉」を取り入れた実習に興味があり参加しました。②お寺でのイベント(子ども食堂やお祭り)を開催しましたが、周知されていないのか、あまり人が集まらず、SNSを使って宣伝するなど、今後の広報活動について考えていく必要があると思います。④お寺に訪問してお寺が拠点となる企画を立案し、どうすれば若い人たちに気軽に立ち寄ることができるのか？ということについて、検討しています。⑤後期の活動で、私たちのグループは「子ども食堂」を実施されているお寺と参画し実践することで、この取り組みの本来の目標を明確にしていきたいと思っています。⑥「社会共生実習」は他の学科や違う学年の受講生たちと学科に囚われず興味があるプロジェクトに参画し、フィールドワークを中心に新しい発見が見つけられる実習に参加して協力できればいいな…って、と思っています。



お寺の可能性を引き出そう！
～社会におけるお寺の役割を考える～
現代福祉学科 3年生
大坪 千尋さん